

指標／年度	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	グループ目標(2030年)
エンゲージメントスコア ※ 1	ポイント	-	-	68.6	68.6	69.9	全職種の上位20%以内
法定外労働時間（平均月間）	時間	10.4	13.2	13.9	13.8	-	10時間以下
年次有給休暇取得率	%	53.0	55.4	63.2	67.1	-	80%
健康診断受診率	%	73.1	88.4	94.2	100.0	-	100%
ストレスチェック受検率 ※ 2	%	95.00	95.60	92.60	95.90	99.16	100%
総合健康リスク（ストレスチェック） ※ 3	ポイント	88	87	85	84	80	-
いきいき度（ストレスチェック） ※ 4	ポイント	101	102	105	108	108	-
ワークエンゲージメント（ストレスチェック） ※ 5	ポイント	2.39	2.39	2.41	2.45	2.43	-
プレゼンティーズム ※ 6	ポイント	-	-	-	-	76.7	-
アブセンティーズム ※ 7	日数	-	-	-	-	3.5	-

※ 1 高いほど良い指標です（同業界同規模平均基準63.5）。9つの要素を基にワークエンゲージメントとエンプロイヤーエンゲージメントを更に要素分解してスコアを算出。*「エンゲージメントスコア」と下記にある「ワークエンゲージメント（ストレスチェック）」は異なる指標です。

※ 2 高いほど良い指標です。良いとされる基準は78.00%以上です。

※ 3 低いほど良い指標です。良いとされる基準は100未満です。職場のストレスが個人の健康に与える影響を示したスコア。厚生労働省が2000年に実施した全国332事業場2.5万人の労働者に対する調査データを基に「全国平均＝100」とした偏差値で表示。スコアが低いほど社員の健康に及ぼす悪影響が少なくなることを示しています。

※ 4 高いほど良い指標です。良いとされる基準は100以上です。個人と職場の活性度を示したスコア。職場の一体感やワーク・エンゲージメントの要素を含みます。厚生労働省が2010年に実施した、全国0.5万人の労働者に対する調査データを基に「全国平均＝100」とした偏差値で表示。スコアが高いほど個人や職場の活性度が高いことを示しています。

※ 5 高いほど良い指標です。仕事に対するポジティブで充実した心理状態を示したスコア。新職業性ストレス簡易調査票の、ワーク・エンゲイジメントに関する2項目について4段階のスコアで測定しています。2項目＝（仕事をしていると活力がみなぎるように感じる。自分の仕事に誇りを感じる。）、4段階＝（4：そうだ、3：まあそうだ、2：ややちがう、1：ちがう）

※ 6 高いほど良い指標です（全国平均77.2）。労働者が実際には病気や健康上の理由で仕事を休むべきであるにもかかわらず、出勤し続ける状態。労働生産性が低下している状態。SPQ（Single-Item Presenteeism Question 東大1項目版）にて取得しています。

※ 7 低いほど良い指標で、傷病による欠勤の数を従業員アンケートにて聴取しています。数値は過去1年間の傷病による欠勤日数の従業員アンケートの全社平均です。